

令和元年度第1回石狩海浜植物保護センター運営委員会議事録

◇日 時：令和元年8月27日（火） 14時00分～16時00分

◇会 場：石狩海浜植物保護センター

◇出席者：

＜運営委員＞

松島 肇（会長）

安田秀子（副会長）

石山優子

渋谷真澄

田畑 博

内藤華子

溝渕清彦

山田春雄

＜事務局＞ 環境市民部 環境保全課 兼 石狩海浜植物保護センター

宮原和智（センター長）

菊池 拓（主査）

荒山千恵（主任）

高橋恵美（技師）

◇欠席者：

＜運営委員＞

伊井義人

◇傍聴者：2名

◇次 第

1. 開会

2. 議題

（1）平成30年度石狩海浜植物保護センター活動報告について

（2）令和元年度石狩海浜植物保護センター活動中間報告について

（3）その他

◇議 事

1. 開会

【事務局 宮原センター長】

本日は、大変お忙しい中、石狩浜海浜植物保護センター運営委員会にご出席を戴きまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから、令和元年度第1回石狩浜海浜植物保護センター運営委員会を開催します。

(委員会資料の確認)

—事前送付—

- ・ 次第
- ・ 出席者名簿
- ・ 配席図
- ・ 平成 30 年度石狩浜海浜植物保護センター活動報告 《資料 1》
- ・ 令和元年度石狩浜海浜植物保護センター活動中間報告 《資料 2》
- ・ 石狩浜海浜植物保護センター20 周年記念について(案) 《資料 3》

—当日配布—

- ・ 石狩浜海浜植物保護センター2019 年度来館者用アンケート集計結果 《追加資料》
- ・ 《資料 1》の差替ページ(16 頁)
- ・ 保護センター通信『はまぼうふう(2019 年 9 月)』(Vol. 66)
- ・ イベントチラシ「はまなす広場」

本日の議題は、議事次第のとおり、「(1) 平成 30 年度石狩浜海浜植物保護センター活動報告について」、「(2) 令和元年度石狩浜海浜植物保護センター活動中間報告について」、「(3) その他」となっております。この後の議事進行は松島会長にお願い致しますが、本日は、伊井委員におかれましては所用によりご欠席のご連絡がありましたことをご報告させていただきます。

2. 議題

【松島】

令和元年度第1回石狩浜海浜植物保護センター運営委員会を開催します。

議題(1) 平成 30 年度石狩浜海浜植物保護センター活動報告について

【松島会長】

平成 30 年度の保護センター活動報告について事務局からの説明をお願いします。

【事務局 宮原センター長】

—《資料1》「平成30年度石狩浜海浜植物保護センター活動報告」参照—

改めての説明は割愛させていただく。平成30年度第2回の運営委員会でほぼ同じ内容のものをご審議いただき、そのときにいただいたご意見等も反映できる部分を含めて報告としてまとめている。この場でなくても構わないのでお気づきの点がありましたら事務局までご連絡いただければと思う。

※《資料1》の16頁は差替（当日配布）

【松島会長】

何かあれば事務局にご連絡いただければと思う。

議題（2） 令和元年度石狩浜海浜植物保護センター活動中間報告について

【松島会長】

令和元年度石狩浜海浜植物保護センター活動中間報告について、平成29年度より運営委託している、NPO法人いしかり海辺ファンクラブ代表の石山委員からの説明をお願いする。

【石山委員】

—《資料2》「令和元年度石狩浜海浜植物保護センター活動中間報告」参照—

資料には目を通してあるかと思うので、説明については省かせていただく。実際に展示・観察園・再生園をご覧いただき最後に質疑応答に移りたいと思う。

【松島会長】

展示等、室内外で手をかけられているので、ぜひ皆さんにご覧いただき率直なご意見をいただければと思う。

【石山委員】

保護センター通信『はまぼうふう』Vol.66（当日配布）に再生園で苗づくりをどのように行っているかを詳しく紹介している。苗に関する説明についてはこれに代えさせてもらう。

—現地説明—

○室内の展示について（展示を見ながらリニューアルについて石山委員より説明）

○観察園の整備について（観察園へ移動：各所整備について石山委員より説明）

○再生園の取組みについて（再生園へ移動：保護センター普及員の石井氏による案内）

—室内へ戻り審議再開—

【松島会長】

お疲れ様でした。

【石山委員】

ご覧いただいたまとめとして、展示室では、自分で見て学べる展示にした。また、これまでは植物・環境・昆虫ごとの単体の展示であったが、これらがすべて繋がっている石狩浜の自然であることを強調した内容に今年からなった。

観察園では、先ほど見ていただいたように、带状構造を学べることはもちろん、保護地区

やはまなすの丘公園では（海浜植物を）採取したり根を掘り起こしたりできないなかで、ここ（保護センター）では海浜植物に実際に触れて体験できるところに意味のある観察園になっていると思う。例えば、今年度に視覚障害のある方の団体がいらしたときに、観察園で（海浜植物を）ちぎったものを触ってもらったり匂いを嗅いでもらったりすることで、より植物に親しみをもってもらった。また、車いすの方の利用も今年は多く、はまなすの丘公園の木道では手に届かない海浜植物に、観察園では間近に触れて楽しんでいただいている。

再生園では、ハマナスを増やすことはもちろん、先ほど見ていただいたように、実験を通して栽培手法の確立やどうしたら効率よくハマナスを大きくできるかなど、手法・ノウハウの蓄積を行っている。多くの市民の方が除草作業に関われる点でも再生園の意味が大きくあるかと思う。

【松島会長】

ありがとうございます。いかがでしょうか。

【安田委員】

観察園で触ったりちぎったりして構わないというお話であったが、一人で来られて観察園に足を踏み入れて触っていいことの表示みたいなものはあるか。

【石山委員】

表示はしていない。ちぎったりする場合には普及員と一緒に付いて対応している。

【安田委員】

一般の方が来館されて、（植物に触る、ちぎるなどの）いろいろできる場であるということとがわかるメッセージがないように思った。

【石山委員】

（一般来客者は）普及員がいなくても歩いて植物に近づいてご覧いただくことはできていると思う。外に普及員がいる場合は観察園を歩いている方に声をおかけして一緒に歩いたりすることはしている。今年度やっているなかでは表示の必要性を感じなかった。

（植物の葉などを）ちぎって手元に渡してあげるのは、先ほどのように視覚障害の方などの場合に行っており、常に必要な対応ということではない。

【溝淵委員】

今のお話からは、「気軽にお声かけください」などの表示や腕章などが無くても、常にお声かけなどをされているという状態にあるのかなと思った。

【安田委員】

展示について、全般的に文字が小さい。たくさんの情報を伝えたいが場所が限られているからなのかと思う。字が小さいと見る意欲が削がれてしまう方もいらっしゃるのではないか。

【溝淵委員】

建物の中に入ってきて去年と変わって中が開けた感じがして良いと思った。もともとある展示の情報を編集し直して、今までのように「植物」は「植物」といった断片的に分けるのではなく、まとめていく、ストーリーを追いかけていけるというのは面白いと思った。今

後どのように編集していくか。もしかすると、お手元に配るものと合わせて、どこに周るとどういふストーリーを追いかけていけるのか、美術館のなかの図録と絵の関係のようにそこまで動線を決めるかどうかはわからないが、動線を示すような作り方もあるのかなと思う。

あとは、インスタ映えさせるかどうかというのもあると思う。「テオ・ヤンセン」のイベント（8月4日開催）のときに、保護センターを認識されていない方もいらっしやった。

建物の中に入ってきてこの窓（南側の大きな窓）からの景観（観察園）を見て、「すごいね、昔こうだったのね」ということが見えるとよいかなと思う。

外（観察園）を歩いて日差しが強いときに、少し日差しを遮る場所がうまくセットできると、歩いていて辛くなったから戻ろうではなく、休憩してまた見ていただけるようなスペースがあるとよいのかなと思う。

作業・活動のスペースと見て回れるスペースの区別をしてゾーニングすることで、初めて来た人が行ってよいのか迷って通りにくくなるような場所をさらに改善すると、より行きやすくなるのではないかな。以前よりは改善されている。

【松島会長】

車いすの方の利用が今年は多いということであるが、木道の移動に関して現状はどうか。

【石山委員】

観察園に出る出入口で幅がぎりぎり。奥までは進めないが、小さく1周して見て行かれ、介助付きの方がほとんどである。

【松島会長】

安田さんのご指摘にも関係するが、展示が説明文からスタートしているので、見出し的な言葉が入ってくると目を引きやすくなるのではないかな。詳しく知りたい人は近寄って見てもらえるのではないかな。

【溝淵委員】

たしかに、学会のパネルみたいな感じがする。

【石山委員】

見出し的な言葉というと例えばどのようなものがあるとよいかな。

【松島会長】

例えば、「不安定帯」の展示部分では環境の説明になっているが、「海と陸とのせめぎ合いの場所」といったようなキャッチーな言葉があって、場所のイメージを端的な言葉で伝えて、そこで何が起きているかを歩いて来た方がふと足を止めたくなるような言葉で。

【溝淵委員】

新聞記事などでは義務教育の方がわかるように中学校卒業生でもわかるようにしたりする。ターゲットを誰にするか、どこまで情報を深掘りして伝えるのかという情報編集も必要になる。（展示を見ながら）読み込まないとわからない部分があるので、情報の繋ぎ合わせや配置などの工夫ができるのではないかな。

【内藤委員】

言葉が一人歩きすることに気を配るがために、そういう言葉を抜いて淡々とした部分もある。

【溝渕委員】

情報の役割分担をさせるのであれば、手元の資料でわかりやすいものがあって、たどっていくという方法などもあるのではないか。

【内藤委員】

学生さんなど「すごく知りたい」と思って来られる方も見て「なるほどな」と理解できるレベルにした。子どもには難しいかもしれない。

【松島会長】

全体的に詳しくなって、難易度は上がっているような感じはする。

【内藤委員】

どこにレベルを合わせるか、より詳しくここの自然を知りたい人たちに展示の照準を合わせた。観光客にもその中から情報を拾っていけるような位置づけにした。

【山田委員】

全体の展示としては、草の生えない砂浜がやがて草が生えるようになり、最初は草本から低木の木本、大型の木本へ移っていく。簡単に3つの移り変わる流れがわかり、そして詳しくこうなっている、という話になるとわかりやすいのかと思う。子どものレベルからすれば、砂浜からどうやって林に移っていくのかなと思うのではないか。

【溝渕委員】

子どもであれば、展示スペースに来たときに、展示パネル下部のフェルトで作られた海浜植物の模型を触りにくるのではないかなと思う。模型を触りにきて展示パネルの上部にある解説を見るが、(内容が子ども向けではないため)わからない。展示パネルの上部と下部で解説のターゲットがずれている感じがあるのではないかな。展示パネル下部の右側から植生の移り変わりを触りながら見ていく子どもたちの動きがあるとすると、より詳しく知りたい人はこちらといったように、位置付けを分けてはどうか。

【田畑委員】

パネルの中の情報というのは難しいと思う。館内に来る方は子どもから大人まで。私も小学生を連れて来て、ハマナスに興味をもって展示パネル下部の模型を見たときに、展示パネル上部の解説のほうは難しいので、大人が少し説明を加えて教えてあげようなかたちになる。先ほど文字の大きさについて出されたが、文字を大きくするほど情報量を削らなければならない。先ほどの話にあったように、そのパネルの特徴について上部にキャッチコピーがあるとわかりやすい感じはする。

【溝渕委員】

大学生の方が納得のいくものと、親子さんが子どもに何か話しをしてあげられるような情報内容のものがあるとよいということなのかと思う。

【松島委員】

それぞれのゾーンの説明になるようなパネルがもう一枚ずつあるとわかりやすくなるのではないか。ここで何を説明しているのかというのを親御さんが子どもに伝えられるように。このゾーンでは、海から陸への環境の変化、それに伴い植物が変わり、植物も環境に適応できるよういろいろな形態をもっていることを説明しているということを簡潔に1枚のパネルで示す。あのゾーンでは、石狩のこの辺りの環境について説明していることを簡潔にパネルで示すなど。入ってきて今の展示パネルだけを見ていても、それぞれの繋がりがわかりにくいと思う。「目の前にある展示は太古からの石狩の変化を表しています」といった見出しと、何を見せたいかを簡潔にまとめたようなものがあると、かなり見やすくなってくる印象を受ける。番号を大きくつけて流れが追えるように。今の展示にも1・2・3があるが、2が目の前あって1の「センターの役割」が少し影に隠れてしまっている。入ってすぐのところに案内板があるので、そこでもう少し順路を明示するとよい。少しずつでよいと思う。

【松島会長】

他にいかがですか。

【山田委員】

例えば、テンキグサを乾燥させて籠を作るなどの工作をしていると思うが、そういう作品はどこかに展示されているか。

【内藤委員】

展示室内に一部あるが、多くは作った方が作品を持って帰られている。

【溝渕委員】

展示室内でコースターを作る体験コーナーもある。

【山田委員】

そういうものが目立っているとよいと思った。例えば、ハマナスはこういうものに使われるなど。植生はわかって勉強になるが、実際にアイヌの人はこれでこんなふうに使っていたなど。スペースがないのかなとも思うが、置いてでも展示できれば、昔の人はこんなふうに使っていたなど、事業との関連性が出てインパクトがあるので、なおよい。

【内藤委員】

ハマナスについては、展示パネルの6が再生プロジェクトの展示に跳んでいて、そこでハマナスの活用の話が書かれている。建物の関係で展示がそうなっている。

【松島委員】

フォントや色の統一はしているか。細かいところだが、揃えたほうがよいと思う。

【溝渕委員】

館内の展示スペースが変わらないのであれば、20周年記念のときにパンフレットの更新をされると思うので、パンフレットの中に、ここではこういうのが見られますという情報を入れるだけでもよくなると思う。更新していくのであれば、A4用紙に作って印刷して置いておくなどの方法もあるかと思う。

【安田委員】

石狩海岸のこういうところがすごいとわかるような展示があるとよいのでは。

【内藤委員】

展示の冒頭にある保護センターとはどういうところかを示したところにある。優れた自然地域であることを30年くらい前に北海道が示しており、保護センター設立趣旨の中に出てくることから、その流れで冒頭に紹介している。

議題（３） その他

【松島会長】

8月4日（日）に私が実行委員長を務めて、札幌芸術の森美術館で開催されている「テオ・ヤンセン展」の開催に合わせて、ぜひ砂浜で動かしたいということで、「ストランドピースト」という作品をお借りして、石狩浜へもってきて、海浜に置いて風で動くかどうか皆さんに見ていただくというイベントを実施した。石狩市に後援をいただき、海辺ファンクラブにも当日のお手伝いをいただいた。この場を借りて御礼申し上げる。この1日のイベント当日だけで1000人ほど参加いただいた。石狩浜海水浴場も天気がよくこの日14000人が集まったとの新聞記事の報道があった。この日は風がなくて作品は数歩動いただけであったのは残念であったが、少しでも動く姿を砂浜で見られたのはよかった。お手元にお配りしている絵葉書はイベントを記念して作成したもので、保護センターのキャラクターをコラボレーションして使用させていただいた。イベントに関連して、保護センターでこの絵葉書を置いていただき、（イベントの）帰りに寄っていただくとお配りしているという案内をして、保護センターを見ていただけるようにした。

【石山委員】

（イベント当日の）保護センターへの来場者数は550人あまりで、「はまなすフェスティバル」規模の来館者数となった。

【松島会長】

初めて保護センターに来られた方が多かったと思う。特に札幌の方にも保護センターを見ていただけたことは開催して良かったと思っている。

【松島会長】

次に、事務局から、「保護センター20周年記念」についてご説明いただきたい。

【事務局】

—《資料3》「石狩浜海浜植物保護センター20周年記念について（案）」参照—

保護センターが2000年にオープンしてから来年（2020年）に20周年を迎えることから、記念事業を展開したいと考えており、現時点で《資料3》に示した3点を考えていることをご紹介させていただく。

今年度の保護センターの方針として、「人と自然をつなぐ」「次世代と自然をつなぐ」「地域と自然をつなぐ」「自然情報と自然をつなぐ」という4つの目標を、運営委託先のいしかり海辺ファンクラブで考えていただいている。20周年を機に、10年後・20年後の石狩浜の

保護とどう繋げていくかを考える節目となるような機会にしたい。次の3つを考えている。

1つ目、「人・次世代と自然をつなぐ―対象を絞った体験プログラムの検討―」について。先ほど、車いすの方や視覚障害の方にとときどきご利用いただいている報告があったが、これまで利用の少なかった方を対象に動向調査を兼ねた体験プログラムを実施することを考えている。高齢者施設や障害者施設等で利用促進を促すようなプログラムや、市内だけではなく市外の方を対象とした石狩市のバスを利用した送迎付き体験プログラムを考え、新たな方々にも保護センターへ来ていただける仕組みづくりをしていきたい。

2つ目、「地域と自然をつなぐ―思い出マッププロジェクト―」について。本日欠席されている伊井委員の協力のもと、「思い出マッププロジェクト」として、本町地区の方々を中心に石狩浜との関係性（石狩浜がどう生活に密着していたか）について、ヒアリング・アンケート調査を行う。来年度に調査を行い、その後の保護センターの企画展等で紹介していくことを考えている。

3つ目、「自然情報と自然をつなぐ」について。先ほど溝渚委員が触れられていたことにも関係するが、石狩浜の海浜植物を説明しているブックレットがあったが、現在は在庫が切れている。作成当時とは自然状況が変わっている部分もあり、保護センター館内情報などの紹介も含めたブックレットを作成することで、自然情報と自然をつなげる20周年事業の一つにしたいと考えている。

これから市の予算要求等を進めていく。現時点では案であるが、実施になれば運営委員会でまた報告させていただく。

【溝渚委員】

思い付きレベルで恐縮であるが、例えば20周年で愛称をつけるというのはあり得るか。「保護センター」という名称が硬いという話題は以前からあったと思う。保護だけではなく活用ということも進んでおり、条例上は「保護センター」の名前を変えるのは難しいと思うが、もう少し話題にしやすい名称があってもいいのかなと思う。20周年の際に、それほど労力をかけずにできるのではないか。

【事務局】

指定管理の検討時にも、わかりやすい名称という話題があった。検討材料にさせていただきたいと思う。

【田畑委員】

20周年記念事業は（経常の予算要求とは）別途で予算化されるのか。

【事務局】

保護センターの運営委託費や交付金とは別途の予算要求を考えている。

【田畑委員】

海浜植物ブックレットの作成について、よいことだと思う。

保護地区を見ていると、立入禁止の看板、海浜植物採取禁止等の注意書きがあるのはよいが、貴重な自然海岸や希少な植物について、こちらに来られる方に大切に守り育てていることを紹介する看板が極めて少ない感じがする。はまなすの丘公園や海水浴場にいろいろな

方が来られるので、啓発の看板が海水浴場の駐車場などにあったらどうか。通行が少ないからかもしれないが親船に行くとな。この機会に、保護センターでの 20 年の活動があることを知ってもらい皆で守りましょうといったものを。具体的にハマナスだけでなくハマボウフウなどがあるといった情報も入れた看板があったらよいと思う。

【事務局】

お知らせという意味でももちろん必要と思う。また、逆の意味でここにあるということを情報として示してよいかという部分もある。いろいろと良い面・悪い面を含めて検討のうえ考えていきたいと思う。

【松島会長】

施設の改修はどの程度できるか。雨漏りや木道について。高齢者が人口構成的にも増えていくので、安全に利用できることがベースラインとして求められると思う。予算次第と思うが、ぜひ頑張っていたきたい。

【安田委員】

先ほどの看板の話に関して、石狩市が海浜植物の保護区を設けていることは、まだあまり知られていないと思う。自然を守っていることがわかるような看板があると私もよいなと思う。保護センターと関わってきて、全国的にも少ない施設と思うので、この施設ができた経緯から今日に至るまでの変遷をこの機会にまとめておくことは必要ではないかと強く思う。大先輩の市民が大事な場所だということで調査等をおこない、できてきた経緯がある。どこかでまとめなければならないが誰がやるのかという問題はあると思う。許されるのであれば関わっていききたい。やりたい方を集うなど検討していただけないかと思う。

【松島会長】

他にいかがでしょうか。

【山田委員】

《資料 3》の 1 つ目にある、「体験プログラムの検討」について。スタッフや部屋のスペースの関係があると思うが、今までやってきたなかでどのようなイメージで考えられているのか。

【事務局】

今までの実施では小学校の環境学習で保護センターを利用していることが多い。規模によってグループ分けや時間をずらすなど、収容スペースや定員について考えながら実施している。今回の記念事業案の体験プログラムでも、これらのことを決めていくことを考えながら実施していくが、現時点で具体的な条件を決めてはいるわけではない。まずは体験プログラムが保護センターでできるという周知をおこない、利用団体との関係性を作っていく段階が来年度と考えている。そして、実際に体験プログラムの応募が来るようになったときに、次のステップとして、収容やスタッフを考えていく。まずは保護センターを知らない方への周知をおこない、次に実施して不足部分をどうするかを考えていきたい。

【山田委員】

この事業は来年度から、2020 年 4 月から 2021 年 3 月にかけてやっていくのか。

【事務局】

はい。保護センターの場合は開館期間から実質のところ半年間になるが、冬季の閉館中に花川北・南コミュニティーセンターへ行っての活動も考えられる。いしかり海辺ファンクラブと一緒に考えていきたい。

【石山委員】

《資料3》の3つ目にある、「海浜植物ブックレットの作製」について。保護センターの館内を紹介したパンフレットと自然の成り立ちのブックレットとは別のものかと思う。今ある保護センターのパンフレットも新しくするというのか。

【事務局】

今ある『石狩浜自然観察ハンドブック』については在庫切れである。そこに保護センターの情報も入れて作り直すことを考えている。2つ作るということにはならないと思うが、保護センターの20周年として必要なものを作るのがよいかと考えている。

【石山委員】

どちらかを選択して作るということか。

【事務局】

どちらかを選んでどちらかを外すということにはならないと思う。その辺りについては相談しながら決めていきたい。

【石山委員】

先ほどの溝渚委員のお話で、手で持ちながら見られる資料があるとよいという話があったが、そのような資料の場合、いろいろな情報は入れられないのではと思った。館内情報だけのパンフレットになるイメージをもった。今ある保護センターのパンフレットがそれに置き換わるのか。それとも手にもって見られるような資料はやめて、ざっくりとした保護センターの紹介（開館・閉館の時間などの施設情報のみ）になるのか。まだそのあたりは決まっていないということか。

【事務局】

まだ案の段階である。内容や構成については必要性を考えながら作りたい。

【安田委員】

高齢者福祉施設の方に見ていただくという話があった。今のスタッフで案内できる規模の施設をピックアップして、打ち合わせのうえ、ご案内・ご招待してみてもどうか。環境教育で小学生を対象とした対応はしてきているので、それをベースにしてやってみたらよいのではと以前から思うことはあった。高齢者は特に足の問題があるので短い距離で満喫できるようなプログラムを作るなどして、実践で一步踏み出してはどうか。

もう一つ、以前にエルプラザで講演会という話もあったが、これは実施しないのか。

【事務局】

いしかり海辺ファンクラブとの話合いの中で、20周年記念のときに保護センターへ足を運んでもらいたいという話になった。また、人手の問題や保護センター開館期間に外でイベントをやるのは難しいというのものもある。保護センターに来ていただくきっかけになる20

周年記念行事の内容を考えていく。地下歩行空間でのイベントについて今回は見送りとなった。

【松島会長】

関連して、「ふるさと海辺フォーラム」を来年に北海道でやりたいという話がある。札幌市内で開催して、札幌の人に広く石狩市の海辺の環境とともに保護センター20周年を向かえていることも知ってもらうようにしてはどうか。この話は決まったことではないが、海辺ファンクラブ・保護センターで参加していただいて札幌市内で皆さんに聴いていただくことはできるのではないかな。

【溝渕委員】

20周年記念は開館期間すべてをシーズンとするのか、それともピンポイントに設定するのか。本町にゆかりのある方にお声をかけたり、石狩の「思い出マッププロジェクト」の中間報告のかたちでお招きしたりできると、地元の方が来やすいのかなと思う。

【事務局】

20周年のイベントをピンポイントに実施することは特に決めていない。20周年記念の大きなイベントを開催してはどうかという話もあるが、既に保護センターでは既に多くのイベントを実施している。はまなすフェスティバル、夏休みの体験教室、土日には自然案内人さん（ボランティア）が得意分野を活かして活動してくださっている。イベントに20周年の冠をつけるかどうかというのはあるとは思いますが、大きな記念イベントというのは特に考えていない。

【溝渕委員】

一発で大きな事業を実施するのではないにしても、多くのイベントが実施されているのであれば、20周年記念スタンプカードのような仕掛けがあって、例えば20個スタンプを集めると何か記念品がもらええるといったようなことを考えてみてはどうか。一発大きくでないのであれば、それはそれでインパクトが弱くならないようなやり方があると思う。

【事務局】

通年をとおして来ていただける仕組みづくりの中で活かせるかもしれないので、検討していきたい。

【松島会長】

「(3) その他」のもう一つの議題として、「渚の交番プロジェクト」について事務局から説明をお願いする。

【事務局 宮原センター長】

資料は用意していないが、「渚の交番プロジェクト」について情報提供させていただく。公益財団法人日本財団による助成の一つで、基本は海の安全安心、産業、観光、食、教育、地域おこしなどのできる施設を作ろうというプロジェクトに対するもの。地域が合意のもとに展開する施設に対する助成、開設から3年間の運営助成。石狩市のこの地域で手上げをしている状況にある。助成対象は民間団体となるため観光協会が中心となり関連団体等と連携しながらプロジェクトの手上げとなっている。石狩市役所では政策担当と商

工労働観光課が中心となって進めていこうというところである。今の状況としては、10月に申請予定で手上げはしようかということで聞いている。ただ、全国から40を超える団体が申請をする予定で、今の段階で石狩市のこの地域は順位が低く今年度の採択は難しいところにある。財団からは石狩市ならではの特色をもった施設、冬を含めたお金儲けのできるような施設を考えるよう言われているようである。この場で話題にしたのは、施設を新しくするというなかで、ヴィジターセンターと保護センターの今後の在り方が、このプロジェクトを絡めて今後考えていかなければならないところにある。少子高齢化・人口減少のなかで効率化が求められ、公共施設の機能統合、複合的な機能施設の在り方も求められている。ヴィジターセンターと一緒にするのか不透明で、どこにできるかもわからないが、市としてはこのプロジェクトを前向きに捉え、万が一に統合するとしても保護センターで必要な機能は損なうことなく新しい施設にもっていこうと考えており、新たな機能が必要であれば要求していくことになる。ただ、スピード感としては見えにくく、当初よりダウンしているようである。今後、ご意見をいただくこともあるかと思うし、必要に応じてこちらから新たな情報があれば提供させていただく。

【松島会長】

今のご説明についてご意見やご質問はあるか。

【溝渕委員】

申請の中身では、保護センターの機能や保護活動についてはどれくらい入っているか。

【事務局 宮原センター長】

申請書自体どこまで詳しくというところは、細かく入れているとは聞いていない。

【溝渕委員】

アプローチとしてSDGsなどを含め、資源資本を守りながら「渚の交番」に値するような活動をされている。そのところを合わせて石狩市の場合こういう展開をしていきたいという提案を。通年の商業施設を作って儲けるというよりも、もともとある環境保護の活動をベースに「環境保護－経済－社会」を統合してやっていくという訴えのほうがかねていないか。今年度が難しい場合でも、もし入っていないのであればそういったアプローチもご検討いただけるとよいのではないか。

【事務局 宮原センター長】

日本財団が来られたときには、関係団体を回られて、こちらのいしかり海辺ファンクラブともお会いしている。当然、渚の安心安全や地域の盛り上げというものもあるが、いかにして稼ぐかが要求として高い比重を占めていると聞いている。

【松島会長】

全体をとおして、他にご質問・ご意見はいかがでしょうか。

【安田委員】

ホームページについて。いろいろな施設の情報を得るにはそのホームページを見ると思うが、展示情報が更新されていない。情報発信は小まめにやったほうがよい。イベントに

については更新されている。インスタを始めたと書かれているが、見られますよというメッセージもどこかにあったほうがよいのではないかと。情報更新が遅いのではないかと思います。

それから、話は戻るが、平成 30 年度の活動報告について。

例えば、《資料 1》7 頁（1-3-(1)）に保護センターの展示情報「企画展の開催」が入っている。昨年からであったか、定期観察の会が実施している観察会や展示や協力や共催をしていただいて載せていただけるようになった感じなので、4 月 13 日から 26 日だったかな、札幌エルプラザで「花ごよみ展」をやった。定期観察の会が実施している自然観察と観察会も入ってこなければならぬだろう。あと、いしかり海辺ファンクラブとたしか共催でいろいろな自然に関わるイベントも 2 回くらいやっていなかったか。それが入っていないような気もしたりしている。まだざっとしか見ていないが、いくつか抜けているような印象があった。じっくり見て、メール等でまたお知らせしたいと思う。

これ（《資料 1》）をまとめているのは（担当はどちらか）。

【石山委員】

この年度報告書に関しては、保護センターで実施している事業と環境保全課の実施している事業がすべてまとめたかたちになっているので、最終的にまとめてくださっているのは環境保全課のほうになる。

【内藤委員】

受託業務の部分とそうではない部分とを、最終的に環境保全課のほうで作り直している。共催・協力について載せるかどうかの方針は環境保全課のほうでしてもらったほうが。

【事務局】

具体的なことを後ほどメール等でご連絡いただければと思う。「市民ボランティアによる情報発信」のところにある記載（《資料 1》13 頁：表 1-5 参照）で終わってしまっているの、具体的な写真展等の実施内容を報告書に掲載するかどうかはこちらのほうで検討させていただきたい。

【石山委員】

載せるのはよいが、昨年度の第 2 回運営委員会で仮の報告書（いしかり海辺ファンクラブがまとめた「平成 30 年度 石狩浜海浜植物保護センター事業報告書（仮）」）が出ている。報告書の見直しの期間をできれば設定していただきたい。

【安田委員】

（仮の報告書は）出ていたか。

【石山委員】

仮の報告書は出ている。

【事務局】

運営委託した事業に関しては、昨年度の第 2 回運営委員会のときに報告書（仮）ということで、いしかり海辺ファンクラブから出していただいたものをご覧いただいている。

【石山委員】

（先ほど安田委員が指摘された事項については）そのとき既に抜けているのだと思う。保護センターの報告で新たに《資料１》に挙げられているのは、「事業概要」（１頁）や「６．保護・回復対策」（19 頁）といった環境保全課で実施されている部分である。それ以外の保護センターで実施している事業に関しては、概ね書式や文章の手直しなどは最終的にやっていただいているが、数字・日程・開催事業・項目等については変わっていない。直すのはよいが、仮（の報告書）が出てからどれくらいで最終的な変更事項を出してもらうとよいのか検討していただいてよいか。

【田畑委員】

前回も安田委員からいろいろ出されていたのではないかと。もし原稿が出ていて安田委員の関わられているものがあれば確認してもらってはいいのでは。この場で我々はわからない。

【安田委員】

昨年度に修正等を行ったのは平成 29 年度の事業報告書であったかと思う。最終的なものを見ていなかったが、今日来る前にホームページから確認した。さらに、（今回の《資料１》について）新しいものなのだと思って見ていた。この 30 年度の報告書は初めて見たような気がした。

【内藤委員】

昨年度の冬の時点で、体裁は違うが同じ内容のもの（いしかり海辺ファンクラブがまとめた「平成 30 年度石狩浜海浜植物保護センター事業報告（仮）」）が出ている。（《資料１》に記載されている平成 30 年度報告は）その時点でチェックが入りそれが反映されたもの。

【松島会長】

帰って確認いただいてメール等でご連絡いただければと思う。

他にいかがでしょうか。

【松島会長】

１点確認であるが、「渚の交番」については申請内容を検討する機会はこの委員会であるのか。

【事務局 宮原センター長】

ない。繰り返しになるが、申請者は観光協会となると思う。そこに、（石狩市の）政策担当と商工労働課がからみ、必要に応じて保護センターも情報提供をいただくかたち。申請についてそこまで詳細ということとは聞いていない。優先順位は低く、挙げるか挙げないかも含めて。

【松島会長】

私が確認したいポイントは、保護センターの機能について、新しい施設と住み分けをするのか、一部を移転なのかという議論があるのであれば、実際に通ってからこうしますで

は委員会としてどうなのかという懸念がある。もし計画があるのではあれば、ある程度は事前に委員会でも少し検討・確認したほうがよいのではないか。

【事務局 宮原センター長】

申請書の内容について改めて確認はしてみるが、当初聞いていた部分では、実際に施設内容検討は採択を受けてから具体的に関連団体意見を踏まえて作り上げると聞いている。申請段階で施設の在り方に言及されているのであればご相談させていただく。

【松島会長】

先ほどの溝渚委員もおっしゃられていたように、SDGs 関連の話はこれからは大事である。単に利益が上がるからだけではなく、貧困の撲滅やサステナブルなゴールにどれだけ貢献ができるかが重要な評価項目になっていると思う。申請段階でどれだけ盛り込んでいるかも通りやすくなるかの大事なポイントではないかと思う。

【溝渚委員】

経済性で考えて石狩本町にということでは低くなるのであれば、石狩市内の別の地域にという可能性も出てくるのかと思う。委員会全体でなくとも一度申請書がどのようなかたちなのか、松島会長とだけでも話してみしてほしい。

【松島会長】

議題はすべて終了したので、事務局にお返しする。

3. 閉会

【事務局 宮原センター長】

長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。活動報告については事務局のほうで内容を確認したうえで、確定したものをお送りするようなかたちになります。

平成 29 年度より、いしかり海辺ファンクラブに総括的に運営をしていただき、委員の皆様からもいただいたとおり、すごく良く施設が変わってきていると市のほうで認識しております。わかりやすい説明、季節更新、専門性、漫画・キャラクター等を使用した子ども向けの部分もよく作り上げられ、非常に感謝しているところです。また今日は貴重なご意見をいただき、私ども、また委託先であるいしかり海辺ファンクラブも参考になったと考えております。

第 1 回石狩海浜植物保護センター運営委員会を終了いたします。ありがとうございました。

議事録を確認しました。

令和元年 9 月 27 日

石狩海浜植物保護センター
運営委員会会長 松島 肇